

令和元年度【放課後等デイサービス】自己評価結果及び改善点(事業者)

国立病院機構七尾病院

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			利用者が多い日や活動内容によっては手狭に感じることがあるので、配慮が必要である。(特に重症心身障害児の活動スペース)
	2	職員の配置数は適切である		○		施設基準としては問題ないが、利用者が多い時やその日の職員数により協力できる体制を作っている。今後も継続する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			出入口、事業所内については、段差もなくフラットな状態になっている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			職員間で意見を出し合い業務を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートを実施し、保護者の意向を把握していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		行政機関等実地指導をしていただき、その結果を受けて業務改善に努めていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			院内研修が定期的に多数開催されており、職員が参加している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			日々の支援や、保護者との面談を行い、ニーズを把握し計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			アセスメントシートを用いている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			関係する職員で検討し活動を計画している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			時期や利用者により活動内容を工夫している。今後も内容を工夫しながら実施していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		一人一人の状態に合わせた支援を行っているが、今後も検討を重ねていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○			利用者それぞれの状況やニーズに応じた計画を作成するように心がけている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎朝打ち合わせを行い、その日の予定を確認している。スタッフ間のコミュニケーションを意識し支援を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		毎回必ず打ち合わせはできていないが、気づいたことや課題などについてはスタッフ間で情報共有している。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			毎回記録の入力をしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			モニタリングを行い、6ヶ月に1回計画の見直しを行うことができています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			実施できている。
関係機関 との連携 や保護者	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			実施できている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			概ね連絡調整ができる体制を作っている。
関係機関 や保護者 との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			他院に主治医がいる場合が多いが必要に応じて連絡が取れるようにしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			必要に応じて情報共有できる体制を整えている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			必要に応じて情報共有できる体制を整えている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		今後も積極的に研修を受けていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	現在は他の児童と交流する機会はない。今後検討。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			参加することができている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡ノートに本日の様子を記入したり、送迎時に家族と積極的にコミュニケーションをとるようにしている。(重症心身障害児) 毎回、保護者と話をする時間を設けている。今後も継続する。(発達障害児)
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			療育プログラムの中に保護者と話し合う時間を設けている。その際に、相談に応じたりアドバイスをするようにしている。(発達障害児)

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に説明を行っている。変更があった場合等は都度説明を行うようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			日頃から家族とのコミュニケーションを心がけており、適宜相談や支援が行える体制を作っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	保護者会の開催は行っていない。今後検討が必要。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			保護者から相談があればすぐに対応し、話を伺っている。また苦情受付窓口も設置している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			利用者に対しては、毎月、機関紙『ひなたぼっこ』を発行し、1ヶ月の活動報告、今後の行事予定、献立表等をお伝えしている。(重症心身障害児)
	35	個人情報に十分注意している	○			掲示物や写真の掲載等個人情報に係る書類等については、常に保護者の確認を取っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			個々の利用者の特徴を把握し、かかわると共に、保護者とはできるだけ話しやすい対応や環境を作るなど、配慮している。
非常時等の対応	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		各種マニュアルは整備されており、掲示もしている。今後も家族に周知できるよう対応を工夫していく。
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		施設全体としては、避難訓練等を行っているが、通所事業所に関する訓練はあまり行われていない。今後訓練の計画やマニュアルの見直し等行えるようにする。
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			毎年、職員全員を対象に研修を行っている。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			該当する児童はいないが、必要な場合は利用者には確認し、同意を得るようにしていく。